

平成23年度

第3回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成23年10月28日（金）

場所：鶴岡市役所 議会委員会室

鶴岡市役所 401会議室

平成23年度 第3回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成23年10月28日（金） 午後1時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室

○ 出席委員（五十音順）

五十嵐吉右衛門、五十嵐寅吉、五十嵐松治、稲泉眞彦、後藤輝夫、今野毅、
今野利克、齋藤春子、佐藤正廣、荘司正明、高山利幸、茅野進、早坂剛、
早坂裕子、三浦惇、山田登

○ 欠席委員（五十音順）

阿部和博、竹内峰子、本間孝夫、本間昭志

○ 市側出席職員

地域活性化推進室長 吉住光正、地域活性化推進室係長 三浦裕美、
地域活性化推進室主任 飯野剛、地域活性化推進室 進藤希世加

- 1 開 会 （午後1時30分） 分科会毎
 - ・地域コミュニティ分科会（議会委員会室）
 - ・産業経済分科会 （401会議室）
- 2 協議事項
 - （1）鶴岡地域審議会のこれまでの議論の内容（資料1）（資料2）
 - （2）各協議テーマの具体的な解決策・施策について
- 3 全体会
 - （1）分科会毎での協議内容報告
 - （2）提言書に向けて
 - （3）その他
- 4 閉 会

<地域コミュニティ分科会>

- 1 開 会 （午後1時30分） （三浦裕美地域活性化推進室係長）
- 2 協 議 （進行 山田登分科会長）

○ 山田登分科会長 それでは、コミュニティ分科会を始めます。最初に資料1、2について事務局からご説明をお願いいたします。

○ 三浦裕美地域活性化推進室係長 （前回までのまとめの報告）

○ 山田登分科会長 前回話し合ったことが1で整理をされ、現状と課題、そこからの考え方、具体的な解決策等とよくまとまったと思います。その続きの話し合いを更に深めていくということになりますが、先ほどの説明にもあったように、その地域のコミュニティの活性化、安全・安心な地域づくりということを考えていく場合に、どのようなことを課題として取り上げ、解決していけばいいのか。前は、人口が段々少なくなっていくことに対する対策も、考えていかなければならない。それから地域活動の中に担い手、特に若い人を仲間に入れていく、子どもを含めて地域活動を活性化していくにはどうすればいいのかということで、いろいろご意見を頂いておりました。それから高齢者に対する課題、援助のあり方、高齢者の足の確保ということでの交通問題、買い物も大変になってきているので、買い物難民の救出のあり様を考える必要があるということ。高齢者を訪問し、何か困っていることありませんかと聞くと、中には整理整頓や家の中の掃除が行き届かないので、誰かにしてもらいたいということもございました。整理整頓や衛生上の問題など身の回りのことで困っていることもあるのかと思いますので、そういう課題を掘り起こし解決策を考えていかなければならない。施設も最近は充実し相談にも応じてくれるとはなっていますが、速やかに相談活動が進むためには、誰がどのように動いていけばいいのかという問題があるのではないかと思います。そういうことについて、分科会は3時くらいまでということですので、いろいろとお考えや気付いたことを出していただければありがたいと思います。

○ 後藤輝夫委員 私たちの発言をもとにまとめてありますが、とにかくマスコミが使っている言葉を使い、それが既定の事実となってしまいます。受ける側からするとどうかと思う2つの言葉について、若者や子育て世代を巻き込むとありますが、私はその立場だったらいやだなという気持ちです。それから、買い物難民という言葉も今日の新聞にも大きな活字で出ていて、そういう言葉を使えないのは時代に遅れてしまうのかも知れませんが、自分が買物が出来ない時に言われたら不快な思いがします。買い物に不便を感じている、支障があるとか、少し長いかも知れませんが、そのような表現にして欲しいと思います。テーマ1 地域パワーをアップするためには、地域コミュニティが連携する必要があるとあります。この現状を見た場合に、コミュニティや地域と言っていますが、私は昔から行政の縦割りにならったに過ぎないと思います。まず、現在ある何々委員会などと言う前に、地域の力をアップするためには、少子高齢化という言葉がありますが、子どもや壮年層、青年層が少ないといっても、割合では高齢者が非常に多いです。大きな組織の上のほうからは、期待している高齢者力としてお褒めを頂きますが、現場ではほとんど高齢者は取るに足らない扱いを受けているのが実態で、今日のニュース解説かテレビでも、年寄りが多すぎて世の中困っているのだ

と言わんばかりのような言い方に聞こえました。自治力をアップするには、そこに住む全住民の総力を高めること。高めるためには認識の格差があってはならないわけで、今の世の中、年寄りが要らないとか、今の若者は全然世の中のことが分かっていないとかではなく、物事を考えるにはまず共通に話し合う場が必要です。スタートから各年代層が参加し、計画、実践、評価反省に至る一連のことに、すべての年齢層が対等に参画することで、若い人に学ぶことが出来たとか、人生経験の豊かな人達から、はっと目を覚まされたということをお互いが尊重し理解していくことにより、初めてこのコミュニティが連携していくのだと思います。それから2ページの下に、市の広域で大掛かりな災害を想定した全体の防災訓練を実施するとありますが、この間も11日にちなんでということを申し上げました。各地域や各団体がバラバラに事業計画を組みます。先日も湯田川地区で市の総合防災訓練が行われましたが、私は先に予定が入った後で実施ということが分かりました。予め3月11日なら3月11日、9月11日なら9月11日というように市民に徹底しておけば、諸団体の事業や家庭の行事などを予定としないで、皆が参加できるのではないかと思います。

○ **山田登分科会長** 貴重なご意見を頂きました。誤解を招かないような言い方をということで、その通りだと思いますので気をつけていただければと思います。それから大きい行事をするには地域の方々が大勢参加できるようにしていくということで、相当前からお知らせする必要があるのではないかとということでした。多くの市民が参加するものは、何年も前から決まっているぐらいの計画を立てないと、周知徹底が図られないのではないかと思います。花火大会も8月10日に固定すると、その日は鶴岡市の大花火大会があるというPRを鶴岡だけでなく全国に発信し、花火に協力を頂く。あるいは観光客もその日を目指してやってくる。そういうPRも必要があって日にちを設定していると思いますが、大きい行事をする場合には、名目の成り立つ日というのをしっかり定めて実施していく必要があるのではないかと意見だったと思います。

○ **齋藤春子委員** 3. 11以降7ヶ月が経ち、各団体が集まると今まとめられたような意見が出ますが、私はいち早く地域のコミセン、町内会ががっちりしていないと、今日明日にでもどんな災害が起きるか分からないという現状だと思います。どういう反省が出て、行政としてはまず早急にこれだけはやろうということが出来ているのか。まだ何も決まっていませんではなくて、前向きで出てきていると思うので大雑把でも、行政としての方向、地域でこういうことが問題になったとか、各団体や町内会長さんの代表も出ていますので、これにまとまったとは思いますが、何時どんな災害が起きるか分からないということは、年寄りだけしかいない時間に起きるという可能性が多分にありますので、先ほどまとめられた、最も大事なことは地域のコミュニティだと思います。人間と人間との繋がりがなくて、災害は絶対乗り越えられることが出来ないと思っています。年寄りだから労わらなくてはならないのではなく、やれる事は何か。有事の場合は皆でこうしようという計画を立てて、私はそういう人間と人間との毎日の生活のそこをいち早く、例えばどこかの地域でやっているような車座トークでも結構です。皆の生の声を聞いているのかどうか少し心配で、もし概略だけでも、市としての方向をお聞かせ願えればと思います。

○ **三浦裕美地域活性化推進室係長** 危機管理課で調査や防災訓練をしていると思いますが、

今の状況は確認しておりません。ご意見があったことをお伝えしておきます。

○ 齋藤春子委員 鉄は熱いうちに打てと言います。皆が戦々恐々としている時に、自分の地域で最も劣っているのは何かということを生の声で話し合う、声が出せるのではないかと思います。私はこの間市長との懇談会の時に海岸地であればいち早く逃げる時、避難所としてはどこが最もいいのか。早急にそこだけは確保して欲しいと申し上げました。皆さんの声があれば、ぼんやりしていただけないし飛び出して私も一緒に逃げようというところの地域コミュニティの見直しをするのが、逆に言えばいいチャンスであり、それが本当の地域のコミュニティ化に繋がっていく大事な問題だと思います。皆さんでやってらっしゃるところもあるし、1回2回で済むわけではないのですが、大事にして繋げていきたいと思っています。

○ 山田登分科会長 3. 1 1の震災後に考え方が変わったと言う声が聞かれます。何かに気がつき大いに反省をして、今後こうあるべきだという考え方が変わったということで、人々は感じていますが、そのような考え方を出し合い、本当に地域の中で反省会をして集約していくことも大事なのではないかと。喉もと過ぎれば何とかということで、大震災の教訓を忘れないようにしていきたい。そういう財産を将来にしっかり残すということも大事なのではないかとご意見だったと思います。そういうことで町内会単位、学区単位、また市単位でもやっていかなければならないのかと思います。

○ 高山利幸委員 3ページに災害時を想定したリーダー育成とありますが、いざ災害が起きた時は、市や県の職員は現場の対応に当たるため居なくなります。市の職員OB、県職員OB、国の職員OBの方で、今、退職を迎えられる方で私が知っているなかでも、実際に色々な災害の時に対応に当たった経験があるという方が結構います。個人情報でそういう前の仕事のことが分かるかどうかですが、そういう方たちにもリーダー的な仕事をお願いできれば、多分その対応に当たってきた方というのは、いざという時に動けるといいますので、そういう方たちもいるということを入れておいていただければと思います。

○ 茅野進委員 コミセンは防災センターという名前です。鶴岡では震度4で停電になりましたが、その時に学区社協の立場で、どういう対応したのか問われました。私達は例えばボランティアセンターから帽子やシャベルをくださいなど言われましたが、そういうものはボラセンでいいのですが、言葉では行政と地域の連携とありますが、その行政と地域の連携を図るパイプは町内会長かも知れませんが、防災に関してはコミセン、防災センターではないのかと私は思います。コミュニティセンター、防災センターには何がどんな物があり備品があるのかを住民が知っているかです。前にも話しましたが、震度4の時は職員が集まるということです。5、6の時の対応については私は知りません。防災センターの機能というのは備蓄だけでなく何なのか。それから町内会までどのように情報を下ろしていくかを、一日の無線を確認するだけでなく、住民との関係がコミュニティセンター、防災センターの役割だと思えますし、もう少し大事にしなければならないと思います。それから、私の学区で明日南三陸町から来て講演していただきますが、自助、公助、共助が防災の自己管理といえますか、分かりやすい防災の考え方をきちっと育てる。また、住民に分かりやすい防災マップをつくっていく必要があると思います。3番目として個人情報保護は地域の中でコミュニテ

いづくりの障害だと思えます。命を守るためには個人情報も公開されるのだということを前提にしないと、町内会長さんが留守だったりすると、そういう情報が全然入ってきません。情報をこれからどう管理していくかというのは、行政とのパイプの中で考えていかなければならないと思えます。地域の活性化のためには、日常の中で若い人や子ども達との世代交流事業やイベントなどをしないと、若い人と高齢者の触れ合いが非常に出来にくいと思えます。町ごとのイベントなどで活性化することにより、地域の活性化が出来てくるだろうと思えますので、防災と併せて考えていく必要があるのではないかと思います。

○ 稲泉眞彦委員 リーダーの問題が出ましたので申し上げます。私も町内会はじめ体育協会など、いろいろな形で社会と関わっています。鶴岡の人は圧倒的にそういう人が多いし、誇りにしている人が沢山いますが、その中で、現職の人はなかなか参加しないということ強く感じます。実際は忙しく、若者の場合、特に深夜勤務など勤務が不規則で難しいと思えますが、鶴岡市職員の地域参加というのが非常に少ないというのは、私の町内だけでなく多に聞きます。市長はことあるごとに積極的に地域に出なさいとおっしゃっていると聞き、十分承知していますがなかなかもなっていない。市職員はその義務があると思えます。私も学校の先生で県職員でしたから、県職員も学校の先生も同様の義務がある。ただ町内会に出るだけでなく、例えば、学校の先生や一般社会人であれ、スポ少の指導等をしているのは会社員その他の若い人達で、ある意味地域への参加です。体協の人達も全くのボランティアで長年やっています。文化活動をしている人達も非常に多いですが、公の仕事をしている人は、地域に何らかの貢献をしなければならないという意識を植えつけるというか、要求するくらいでもいいのではないかと思います。私は詳しくは知りませんが、市の職員の採用に関しても、ボランティア、文化活動、スポーツ活動その他社会貢献できるような質を持っている者こそ市職員に相応しいということを書きにして採用していけば、徐々に変わっていくのではないかと思います。市職員になって市の仕事をするのが社会に貢献していることにはならない世の中だということ認識して欲しいと思えます。それから町内会にも関わっていて家の者も民生委員をしています。正確には把握していませんが一割弱はひとり暮らしです。ひとり暮らしの家にヤクルトを持って毎週回り、安否や健康確認など、場合によっては相談を受けますが、その他にも高齢者に関して、この家に高齢者がいるのか、何歳なのか、生活状態や仕事を持っているのかなど、近年制定された情報に関わる規制で出さない、または出しませんという人がいる。他の人から情報提供をいただく事は役員としては出来ない。市に聞いて強制は出来ませんと言われると、やるなとも、あなたがやるならいいよとも聞かえます。ここ2年ほどで、私の町内で民生委員が回って発見したひとり独り暮らしの死亡事故がありました。この方の亡くなったことを誰に連絡すればいいのか。市その他に聞いても分からないのが現実です。近所の間人間関係がきちんとしていっていると分かりますが、出来れば事前に調査をしたり本人からも聞いておきたい。ひとり暮らしの人で、数日夕方訪ねると応答がなく、遠くに居る息子さんと連絡が取れて見ていただいたら、風邪を引いて寝ていたということもありました。それから退職した教員の会で役員をしています。この会でも最近あくまで本人の希望ですが、ひとり暮らしの方に万が一の時の連絡先を書いてくれという調査をしたら、ぜひここに連絡してくださいという方が多かったです。係は月に1回程度しか回らないので、そういう情報をきちっと取ることが非常に難しくなっている。これを何とか出来ないのかということ今強く感じているところです。

○ **今野利克委員** ひとり暮らしの人の安否や生存状況の確認という関係の仕事に絡んでいますが、そのこととは関係なくお話しします。ご存知の方もいらっしゃると思いますが鶴岡市に愛の福祉電話といって、独居の方、障害をもって独居の方、高齢の方ということで、冷蔵庫と万が一の際はボタン一つで119番に繋がるというシステムあり、安否確認も定期的に行えるようになっていきます。トイレに行かない人はいない。中には動けなくて行けない方もいて、それはそれで動けないという把握をします。冷蔵庫も生活していく上で開けない人は多分ないということで、冷蔵庫とトイレにセンサーを付けてリズム監視ということで、その一定の期間アクションがなければ消防本部から「どうですか」ということで、本人ないし登録している協力員の方に連絡を取るというものです。普及率、周知度、認知度はまだまだだと思います。人が動くものが動くとなれば掛かるものは決まっていますので、実際は地域の方が足を運んで声掛けることは一番いいのだと思いますが、物理的に百パーセントは回れない状態でしょうから、そういう機器的なところに助成、補助とか手厚く対応するというのも一考かと感じました。福祉課では十分存じ上げていると思いますが、今その話が出ましたので進言させていただきました。

○ **五十嵐松治委員** 3. 11の後に災害についてではなく、学区社協で雑談的な話が出ました。その中で、今までは大変だという話は出ても、心構えについてはあまり話がなかったと考えております。一番大事なのは、自分自身が一番に自分の命を守っていくという意識を持ちながら、社会的な付き合いをしていくという心構えの醸成を、どうしたら出来るのかということです。学区社協、町内、いろいろなところでの話し合いが、このように皆さんに伝わりますが、隣組になると殆ど伝わらない。チラシが来ても読まずに次の人に渡すということが往々にしてあり、どういうことが書いてあったのか、3. 11の災害がどうだったのかということに、興味を示さない人が案外いるのかと思います。この意識の醸成と情報の伝達が、末端の人達にどうしたら伝わるのかと考えると、後藤委員からありましたが、少人数、小世帯の単位で心のわかり合った人達との関係があれば、隣組やそういう組織で、本当に自分達の命を守っていくという観点で皆が話し合いを持てば、非常にいい関係が生まれると思います。隣組の本当に身近な人達が毎日何気なく会話する中で、防災意識、人を大切にする気持ち、あの家のおばあさんは今こうだという具体的な話が本当に伝わるのは、私は末端の町内の世帯の方々の組織だと思っています。上の方々は会議で横の連携を良く取りますが、具体的な形になって世帯には降りていないことを今感じています。それから、もう一つは民生委員さんが、先ほどのように様々なことがあり本当にご苦労な話です。その中で、一番大切なのは、民生委員一人ひとりの意識の理解、醸成がしっかりされないと、民生委員という名前だけで大丈夫となってしまう。一生懸命やる人はきりがありません。私のほうでも一人欠員になっていますが、安心して暮らせる社会を築いていくという観点からすると、ヤクルトは貰いますが、どんなサービス内容があり、困った時に誰に相談していいかがされなくなってしまう。欠員というものが無くなるような施策を是非していただかないと、段々無関心になるにつれ欠員が生じても何とかなるとしてしまおうと、やがては何に頼ったらいいのかも、一般の方々が分からなくなってしまうことを考えた時に、行政のある程度のリーダーシップのもとで、完全に民生委員を選出できるような体制を、前にも話しましたが、民生委員だけの問題ではなく、地域の福祉をどう維持していくかということに大きく関わってきますので、しっかりとした考え方を持って当たらなくてはならないと考えているところです。

○ **茅野進委員** 市の福祉計画と活動計画を、地域福祉が今なぜ必要かという実態、高齢化率、人口減少を踏まえて作りました。市の福祉計画、活動計画も地域を支えるにはネットワークづくりで、中心となるのは町内会長と民生委員だと書いています。町内会長さん達や民生委員がどれだけ理解しているかという事を踏まえてですが、考え方の基本は皆さん言ったように、今まで町内会単位でしたが、5層エリアの隣組単位の見守りを支援し支えるチームリーダーは町内会長と民生委員と書いてあります。これから5年間で問われてくると思います。もう一つは、防災と福祉のマップです。危ない所はどこか、どんな道具があるかが防災マップ、高齢者がどこにいるかが福祉マップですが、防災は危機管理、福祉は福祉課という縦の考え方が地域にまだまだあるので、福祉マップと防災マップは違うという発想が地域の中にあります。私は、福祉マップと防災マップを一緒にすることを一番努力しています。福祉防災とは一つで地域福祉だということ考えています。3番目ですが、鶴岡は大きい地震も大水もないという発想がまだまだ残っている。先日ある研修会で災害の話をし、インフラ整備が大事だと話しをしたところ、海辺の会長さんから、三瀬、小波渡とかの地区の事が頭にないでしようと言われました。地域の特性、地域ごとの課題があるということ。海辺や山の場合は消防があまりない、自主防災が弱いなどという地域性を踏まえたうえでの報告書があつていいのではないかと。地域性に応じた事例集みたいに、こういう場合はこういうことがあるという、一般論でないものを出していただくこともいいのではないかと思います。

○ **山田登分科会長** 町内会長は大変と聞きなるほどと思ったところです。実は、町内会長ということで、高齢者のひとり暮らしの方の様子がおかしいので訪ねて欲しいと私の家に来た方がいます。一緒に行くと洗濯物が干してあり戸もすぐ開きますが、大きい声で「ごめんください」と言っても人が出てこない。中で倒れたか何かあつたのかと思い、家の中に入ってみようとも思いましたが、いきなり入ってばったり出ても具合が悪いので、一旦その場は引き上げ、なえづセンターに相談に行きセンターの職員と一緒に、大きい声で「ごめんください」と言ったら「はい」と出てきました。何かの関係で1回目行った時は出てこれないだけでした。なえづセンターでは、民生委員の日頃の働きについていろいろ聞かれました。民生委員と町内会長は絶えず連絡を取り、情報を共有化していないと、とっさの場合の対応が上手くいかないと思いました。同じ町だけでなく、学区、ある程度広い範囲で情報を共有化していくということは必要なのではないかと。第2学区では前までは3団体の連絡会議ということで、コミセン、町内会、社会福祉でしていましたが、最近から4団体ということで民生委員の会長、副会長も含めて連絡会を開くということをやっております。

○ **今野利克委員** 会長さんのお宅に飛び込んできた方がいるという話で、今日消防団長さんがおりませんが、その地域に消防団がいます。高齢者やひとり暮らしの把握も、もちろん今までどおり、今までよりもなお深くも大事ですが、個人情報にはなりますが、ここの家には消防団の人がいますよというような何かが、難しいのですが、逆の意味でのマップと言えはいいのか、子ども駆け寄り110当番なんかのようなものと言えはいいのか。我々も本職ではないのですが、ホスピタリティ精神、地域貢献の精神、あるいは応急手当や心肺蘇生の訓練とか、全く携わっていない人よりは多少なりとも手がけているので、何らかの多足にはなると自負している部分もあります。消防団というとただ集まって酒飲みをしているというイメージがありますが、それも良く取れば地域コミュニティの情報交換の一翼を担っている

と自負しているのです。再三各箇所に出ましたが、消防団の有効利用と言いますか、もっと我々を使ってもらっていいと思います。その辺もより強固にしてもらえれば、我々も本望かなという気はしております。同じ町にいても、あの家の人は消防だというのは分かる人は分かりますが、何もなければ当然分からない。その辺をどこまで出来るかというのは、再三言っているとおり個人情報がありますが、決して悪いことではないのかと思っております。

○ **山田登分科会長** 活用できる人材もマップの中に入れておくといいのではないかと思います。

○ **今野利克委員** 役所のOBの方とか含めてです。

○ **五十嵐松治委員** 今消防団の活動について聞きましたが、私も消防団員が誰なのか分かりません。知るにはどんな手立てがあるのでしょうか。広報か何かに名前が載っていますか。

○ **今野利克委員** 繰り返しになりますが、個人情報の関係でどこまで教えられるかということがあります。各地域に部長、班長がいてと時系列になっていますので、全て町内会長さんでは大変だろうと思いますが、まずは聞いてみることからでしょうか。

○ **五十嵐松治委員** 名前が分かれば横の連携も考えられます。民生委員もただ見回りとかよく言われますが、実際に回ってみると役所から来た文書が読んでも分からないというのが意外と多く、読んで分かるような文書の書き方というのは無理かも知れませんが、ひとつ考えて欲しいのです。たびたび解説をさせられ、返事を出すのか、出さなくてもいいのかということも往々にあり、地域の中で隣組なら隣組で、お互い仲が良く説明をして、すぐ対応できる状況が一番で、この意識を持つ、地域の生活力をつけるということが大事なのではないかと思えます。日常生活で困ったような事が本当にいろいろと出てきます。それがお互いの隣組同士で話し合えるような環境づくりが、末端までもいろいろな情報が伝わるという基礎が作り出せたらといつも考えています。民生委員ばかりに頼っていても、仕事量が多くとも対応できない。一人で500世帯を担当すると一体どうなるのだということで、しっかりとやれない状況が出ております。担当が少ない人もおりますが、多い人は500世帯を超えています。現実と我々が頭で描くことが違った面が往々にして出てきますので、具体的に生活に密着したことをお互いが支えあいながら、生きていける環境がいかに大切かということが思い起こされました。

○ **後藤輝夫委員** リーダーの話が出ましたので、最初に全市の老人クラブの旧町村別にみると、温海町とか朝日村の行政に携わった方々は、まさしくは期待されるリーダーとしてご活躍なさっています。それから、私の経験によれば大上段に立ってやると良く思われたい。例えば、何々上がりとかなどと言われ、なかなかラブコールされない。町内会長さんや民生児童委員さんにばかり期待されているが、地域でリーダーを養成するという時、若手に全部させることが育てることだと誤解している向きがあり、世代間の交流なくして地域がこんなに議論しても上手くいかない。茅野委員からイベントをやる時とありましたが、若手に丸投げしてもイベントはイベントで終わってしまいます。リーダーとしてOBを地域が喜んで向

かえてくれるような人材は、若い時から自らが努力しなければ育たないといことを申し上げたいと思います。2つ目は情報の伝達、特に町内会よりは隣組、私は軒並み班と言いますが、高齢者は非常に難聴の方が増えています。聞こえないのでテレビのボリュームを上げて、そのうちウトウトと眠ってしまい、訪ねて中に入られても分からない時があります。火災報知機の設置については義務付けられていますが、インターホンはあっても電気も入ってなく形だけの状況にあります。ここに着目して、自分で防災に備える、近隣とのコミュニケーションを取るための、まさに入り口の設置すべき用具であろうと思います。お金貰い行くには全然見込みありません。チラシを配るが見ていません。訪ねても聞こえないので、聞こえるようなものを設置されるように奨励するか、あるいは義務化そのための補助政策までやっていただきたいと思います。

○ 齋藤春子委員 情報のことで、私の地域で電話線を使い各家庭にコミセンから、例えば、ただ今の火災はどこですよと伝わるものがありました。大きい本体の機械が故障し2、3年前全部撤去し、その後みんなが入られるような安くてしかも情報が間違いなく伝わるのを探して欲しいとコミセンに要望をしましたが、未だについておりません。隣の小波渡では、例えば今晚は7時半から何の研修があります。コミセンに集まってという情報まで全部入ります。それが各学区、あるいは町内会ごと鶴岡市として、どの程度の情報、設備が出来るのか聞きたいし、安くて皆が手軽に入られるようなもの。今の地震はここで津波がないとかはテレビ等の情報はありますが、地域の情報として伝わるシステムを是非研究して支給して欲しいと思います。市内にはありませんが、海岸地の災害用は阪神以来付けていただき大変良く入ります。徘徊のおばあさんが見えないということで、事務局長が役所に頼んで情報を出してもらい見つかったということもありました。情報というのは大事だと思っていますので、前向きに検討をお願いしたいと思います。私は福祉、防災は皆イコールであると考えていますので、1本になった地域づくりが本当だと思います。それから、今日コミセンに集まって食事会があるから行かないかと言うと、またひとり暮らしの人達ばかりでいやだと言います。私は地域で食育について保健師さんから話してもらえるから、お年寄りの食事会をしようと言います。ひとり暮らしに限定しないで、お年寄りが仲間を誘って食事会をしようということをししないと、私達は別枠だと言われます。ひとり暮らしになった方がいた時、近所の皆で声かけ、野菜を持って行きながら声をかけたという位が自然なのかという感じがします。どうも意固地になっている年寄りもいるということ考えていかないと、地域の和やかさが薄れていくのかという感じがします。先ほど消防団のことで、この間婦人会で問題になりました。私は防災博士を1回したことがあります。郊外地は消防団と地域が一致していますが、町内の学区の場合はバラバラです。例えば5学区の消防団は第何分団が第5学区とはなっていない。それも消防団の事情があるようですが、組織としては繋がらないと防災訓練などで困らないかと思っています。鶴岡は消防署もあり動きが取れるからという話も聞いたことがあります。地域はほとんど地域ごとの消防団になっています。

○ 五十嵐松治委員 地域の福祉と防災は一本に考えるべきだというお話でしたが、私も賛成です。今、ひとり暮らしとありましたが、一応便宜上使っていて、本来は高齢者に対してどのような催しをしながら、心を一本にまとめていくかという交流の面が一番大事です。回ってみますと日中、家族が皆仕事に出て自分が残ってしまったという高齢者が以外に多いで

す。会食会の時に、ひとり暮らしと限定されてしまうと出て行けない。家族との交流はあっても周囲、その隣組、他の地域の方々との交流が、日中ひとり暮らしの高齢者にはないとことで問題視されていますが、なかなか社協や補助金の関係があると、無制限にも増やしてはいけないこともあり、本来高齢者をどのように支えていくかということでは、いろいろな壁があるのだと感じているところです。

○ 茅野進委員 社協の立場で、今の会食会は補助事業です。それは市社協でやっている形ですが、地域でお茶のみサロンをする発想に切り替えて、社協としては充実させましよう私達が今進めています。私のほうの場合は、ひとり暮らしだけでなく日中一人になる人も、町の中で1週間1回火曜日に100円会費で高齢者20人くらい集まります。社協としての事業はひとり暮らし高齢者という限定ですが、地域づくりとして皆で支えましようという発想でお茶のみサロンを進めることを重要視しております。

○ 稲泉眞彦委員 高齢者という言葉で言えば、例えば、今まで市の補助金があるのは70歳とか75歳からという捉え方、また、過疎化でも前市長さんも郡部の過疎化は深刻なものがあるという捉え方をしていましたが、高齢化になり町の真ん中でも、若い人も年寄りもどんどん減ってきて、市の中心部は空洞化し空き地になる中で、私の町内で廃品回収をする時はその時にもよりますが、小学生ぐらいから80歳ぐらいまで出ます。二十歳前後の若者と80歳の方とは荷物の持ち上げ方とか当然違いますが、ついて回って運動するのも町内活動だという認識をしていかないと、これから高齢者という言葉で年齢か何かで区切るのではなく、お茶のみサロンに出てくるのも町内活動ですし、積極的に若者から年配、高齢までが参加していくことが立派な町内活動で、決して敬老活動だという発想でなく、体を動かし最後まで出来るだけ一人で生きていく。それを我々の市としても模索していかなければならないのではないかと。この内容とは違いますが、鶴岡市の福祉施設やその他の活動に関していえば、中央の人達から見ると都会ではおよそ考えられないような状況で、鶴岡の高齢者は決して冷遇されていないことを、私達は認識するべきだと思います。高齢者でも年金が少ない中で生活をしてきた人がいます。町内でも本当に困った時には生活保護を受ける相談の道もありますよという話もしますが、自分で出来るうちは、あるいは子ども達から援助してもらいながら生活したい。ひとりで生活しておられる方は、私達よりも、いろんなところに積極的に出たり料理や買い物をしています。それは最後まできちんと面倒を見てくれる市だということだと思います。それだけ主張されると皆さん困るかも知れませんが、本当に良い市の行政がされつつあるのではないのかと私は思っています。

○ 早坂裕子委員 正確な情報を震災の時に市民に対して伝えてくれたのかというところを、もう一度検証して欲しいということです。テレビで地震や津波、水素爆発が起きたと言うのは映像ではっきり分かりましたが、見えない放射線に対しての正確な情報というものへの検証をしていただきたいと思います。3月の確か15日、雪の降った日だったと思うのですが、鶴岡市の体育館とかの施設では夕方から使用禁止で閉鎖した事実があったはずですが、実際子供たちも体育館使っていたのですが帰れと言われました。一部の先生が下校する児童に対して、今日は家に帰ったら外に出るなと言ったのが、パニック起したのではないかとということで、翌日県の教育委員会で謝罪をしたニュースが流れました。パニックというものを怖がり

すぎて、市民に対して正確な情報を伝えることを、きちんとしていなかったのではないかと
いうことを感じています。福島とかの問題もそうですが、1ヶ月も2ヶ月も過ぎてから、1
0キロ、20キロ、30キロ圏内ではないところから大きな放射線の数値が挙がっている
という実態があの日に一致しているということ。先日も福島の被災した方々とお話しする機会
があり、福島、郡山に逃げましたがそこでは足りないので山形まで来ましたが、あの日福島、
郡山も危なかったのなら寄らなかった。それを隠していたのではないかとということで、もう
自分達や子どもも被爆していると認識している。そうなってしまったことを、これから前向
きに考えて、健康障害がどのように出るのか一生付き合っていかなければならないというこ
とでした。ことの重大さは、正確な気象条件もありますが、非難する場所を全体的にここは
だめだとか、こちらのほうに行けとか、パニックになろうがならまいが、きちんと伝えるべ
きだったのではないかとということが、この鶴岡市でもあったのではないかと感じているもの
ですから、検証していただきたいと思いました。本当に見えないものに対することに、もう
少しきちんとした対応が出来るようにお願いします。

○ 五十嵐寅吉委員 私はコミュニティセンター、防災センターを預かる者として、5、6年
になります。先ほどありましたが、震度4以上の場合、私達は駆けつけなければなりません。
集落の場合、災害があれば一時避難は大原則なので、住民会長さんに防災センターには毛布
が何枚、発電機が何台、炊き出し用の釜があるなど、いろいろ教えることを徹底しないと、
住民から防災センターは何をする所と言われるので、せつかくの設備を、市民や住民の方に
伝えることが一番大切だと思いますし、リーダーの仕事だと思います。それから、この間町
内会長さんと私達自治会長、鶴岡市全市で三百人位、弁護士さんが講師で個人情報の研修を
しました。今までは各コミセンに市役所の住民台帳の写しをいつも備えてありましたが、今
はそのようなことは全然ありません。避難する場合、住民会長さんや隣組長さんが、自分の
隣組に何人いるも分からないでは困ります。個人情報の研修会の中で、鶴岡市では大体半分
くらいは世帯カードを作っているようです。細かい情報ではなく、何人いるとか、年寄り
がいてとか、緊急時の連絡先とかですが、情報を集める目的を明確にして、それにあう内容
のカードは作れるということ。住民会長さんと隣組長さんが各1通ずつ持っているところ
もあるようです。隣組長さんの任期が1年、長い人で2年なので、次のリーダーになる方に
伝えるということは大切だと思います。私たちの地域には、きちんとした防災組織はあり
ます。例えば、コミセンの代表になれば本部長。その下に各集落の班長。郊外地なので公民
館長がいますが、情報伝達という役目をちゃんと教えていくことが一番大切だと思います。
あと民生委員の方がひとり暮らしの方に、毎週ヤクルトを配るということで、地域の横の連
絡はいつもしています。今は除雪機のこと話題になっています。今回鶴岡市で六十何台の
除雪機の費用が助成され、うちのほうは二台となりましたが、一般の人は機械に強くないの
でやはり危険です。除雪機をどのようにして地域で使用していくかが一つの課題です。局長
が機械に長けているので、ある程度要請があれば行ったり、ひとり暮らしの場合は、集落の
消防団に屋根の雪下ろしや玄関の除雪を頼んでいます。消防の班長さんというのは、鶴岡市
のどこで火災かということが携帯に連絡が入るようになっていています。あと、町内に消防
団員が何名いるとかは各分団がありますので、分団長さんに聞けば大抵は分かるので、町内
会長が把握できるのではないのでしょうか。ただうちの場合は、コミセンでは消防団員は分か
らないです。昔は30名も消防団員がいたけれども、今は機械が4名くらいで活動できるの

で、集落にも6、7名とかで、鶴岡市全体でも昔に比べると3分の1くらいです。そのようなシステムについても、住民の方々に知らせることが一番大切なのではないかと思います。

○ **山田登分科会長** どうもありがとうございました。具体的な事例を交えながら対策の事をお話していただきました。本当に素晴らしいことを次々と発言されましたので、事務局で整理をしてまとめていただければと思います。

<産業経済分科会>

- 1 開 会 （午後 1 時 3 0 分） （吉住光正地域活性化推進室長）
- 2 協 議 （進行 今野毅分科会長）

○ **今野毅分科会長** 皆さんこんにちは。第 3 回審議会の分科会となります。事前に資料をお目通しいただいたかと思えます。なかなかよくまとまっていると思えますが、今日の分科会はこの前の続きということで、時間は 3 時頃までとのことです。資料 1 の 6 ページから産業経済分科会のこと載っていました。現状、意見の概要、具体的な意見といった 3 つの点でまとめてありますが、お読みいただいた中で、もう少し、こういうことを付け加えたいのではないかとということがありましたら、皆さんからご発言いただくこととなりますが、唐突でも大変ですから若干振り返ります。情報力を発信するためには、観光というものは、様々な多岐に渡り地域産業、地域経済に結び網羅されていることが多いのだということが三浦委員からありました。このところを連携しながら、いろいろな地域の伝統文化、食文化、農林水産業の産業の部分の形の中で、もっともっとその密な連携を取った形にしていくべきであろう。そのためには情報を発信する拠点となるようなものが必要ではないか。各種団体を含めてパンフレットがあまりにも多岐にわたり、どこに焦点を当てたものなのか分からない。あるいは観光ガイドなども含め、拠点として駅前マリカ東館といったところの活用の仕方もあるのではないかとありました。あとは市民ぐるみの運動的な啓蒙をしながら、ありとあらゆる手法で一丸となって観光、誘導人口などに取り組むべきではないかということでありましたし、訴える時には庄内藩というひとつの地域ブランドみたいなものを作りながら、鶴岡、酒田に捉われられないような形でリンクさせることが大事なのではないかという提案がありました。と同時にそれらの提案については、企画、販売ということも、もちろん情報発信となりますが、若い人達、カリスマ的な人を募集するという形も含めながらトータル的な地域起こし、地域産業に取り組んでいかなければならないということだったとっております。これらを含めてですが、もう少しこの辺どうなのだろうとか、御角櫓の件もこのまとめの中では、市民運動としてそれらを醸成していこうではないかということがありましたが、具体的にはなかったようですので、この辺どうすればいいのかをお聞き出来ればと思っております。商工会議所の会頭であります早坂会長からこんな事話されたのだということや、五十嵐委員から出された地域集落での様々な伝統文化、お祭りなどもあるのでしょうかけれども、それと温海に行く 3 4 5 号線を、庄内出羽路蕎麦街道だと誰かから聞いた事がありますが、そういう地域の豊かな資源をもっともっと引き出して、ばらばらな動きではなく総力で発信していこうという事になるかと思えます。

○ **早坂剛会長** 今まとめた事だと思えますが、もう少し具体的に言うと鶴岡らしさをもっとどうやって訴えていくかという中で、御角櫓の話もありますし、これもぜひ市民運動として取り上げてもらいたいと思えます。それから、鶴岡市内の中で古い建物が段々壊されているのです。例えば、金沢や高山などのいろいろな観光地と言われるところで、古い日本の良さを残している所を見てきますと、鶴岡にもそれらしき所はあるのですが、なかなか私有地なので自分の所で維持などという問題は難しくなっているのではないかと思います。そういう所を何とか行政と組んだ形で残せないのかと思っております。例えば七日町の三浦屋さん、上肴町の鯉川さん、鶴岡ホテルさんなどの木造の良い建物が鶴岡らしさというもの

を象徴していると思うので、他にも蔵とか古い建物を残す仕組みを何とか出来ないのかと思っています。

○ **今野毅分科会長** 仕組みという、文化財保護との関わりがあるのではないですか。

○ **早坂剛会長** 文化財にはならないと思うのですが、トラストのような新しい仕組み、民間と官と一緒に保存していくやり方もあるようですので、もう少し詳しくこれから調べてみたいと思っていますが、例えば手向の街並みは、羽黒のほうでもやっているかもしれませんが、鶴岡市で言えば大山の街並み、酒屋さんとか。それから、農家で言ったならば昔の豪農の館のようなものは、どこに行っても残っています。それから海岸の方の昔の漁師の人の家とか、山の方にもそういう所があると思うのですが、そういう古い建物を残す仕組みができないのかと思うのです。

○ **今野毅分科会長** トラストは聞いたことがあります。

○ **三浦惇委員** 鶴岡の建築士会で伝統家屋を、調査して保存していこうという調査をやっていると聞いています。そういう物を掘り出しながら価値のあるという言い方はおかしいのですが、文化財審議会にかけてみるということもあるかと思えます。確か社会教育担当だったと思います。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** トラスト運動は、歴史環境を保護、保全をするための市民運動だったと思います。

○ **今野毅分科会長** いろいろな文化財とまでは言わなくても、古い伝統のあるものを残す。また建てるというのは更にコストが掛かるのか、残す方が掛かるのかは分かりませんが。

○ **三浦惇委員** 復元されてもかなりお金はかかります。全額市で保障すればいいのだろうけども、国で半分、県でその2分の1、市町村でその4分の1、あと出資者がいくらか。

○ **今野毅分科会長** 前回出されてことで、体験型、滞在型とかの形の中で収益の生み出し方や様々な話の仕組みとしては考えられますが、短絡的な事は言いませんが、考え方を早坂会長にお話いただいたわけです。この前、荘司委員からカリスマ的なのというお話があったのを、私も非常に印象があったものですから。

○ **荘司正明委員** 今の話で古い建物を残して1つの観光資源にという意味合いもあると思います。1つのコンテンツとして、やはり発信する能力をどこかで身に着けないとなかなか観光客は増えないという現状があると思います。古いものを残しつつ、発信は新しいものであるということで、今の時代ITネットを十分利用しながらやっていく方法が良いんでしょうが、鶴岡市のホームページ、観光案内とかありますが、一般的な観光案内で観光に結びついていのかどうか分かりませんが、私は庄内をナビゲートするナビゲーターシステムというものを作ったらいいのではないかと思います。例えば、庄内出身者が県外に何万人いるか分かりま

せんが、自分の故郷を発信・宣伝してもらうような会員登録、ナビゲートする人を会員として何万人と集めれば、すごい宣伝効果あると思います。そういった人達にメールマガジンのような、会員を集めて定期的に地域のイベントや物産の紹介をして、それを友人知人に案内してもらうといったネットワークづくり。日本全国に散らばっている庄内ファンや庄内出身者という人達でネットワークを作って、より庄内の魅力を発信する、そういう事業がひとつあってもいいのかなと思います。

○ **今野毅分科会長** 県人会や鶴岡ふるさと会などに出たりすると、皆さんすごく故郷に対する思いがあります。今言うように繋がり求めるべきなのでしょう。鶴岡ファン庄内ファンというのは相当いるのだらうと思います。鶴岡市役所のホームページから、いろいろな所にリンクしています。どの位利用されているか、どこかの会社へリンクしたなどの数がどれ位あるか、活用度がもし分かれば。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** どの位アクセスをしているか、担当から聞かないと分かりませんが相当の数かと思えます。行政からの発信はいろいろな要素がありますので、観光を求める人が鶴岡市役所へアクセスして必要な観光情報までうまく辿りつけるための役割は弱いかなと思います。

○ **今野毅分科会長** 当然私どもは観光産業という所の話をしていきます。農協のホームページにも相当のアクセスがあります。行政も会社もしている。それを活かすトータル的にどれ位のキャパシティになるのかなと思います。どのようにするかは先の話になるのですが、荘司委員が言ったように発信場所を集約すればいろいろな可能性が出てきます。

○ **荘司正明委員** 観光だけについて言えば、鶴岡、酒田に分かれないで一緒になってやるようなところがあれば、効率的になると思います。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 民間で何か作るとか、NPOとか、市同士が協力してやるなどと、いろいろなパターンはあるのですが、どういう組織でやっていくのかということが一番重要ではないでしょうか。

○ **今野毅分科会長** 一気に広域的と言ってしまうとなかなか出来ないけれども、連携を取るということは、庄内のこの位の域だと幾らでも出来るのではないのでしょうか。連携を取りましようという意識の醸成が必要なのだと思います。

○ **早坂剛会長** 市長がコンベンション協会の会長で私は副会長をしています。今おっしゃったようなITを通しての情報の提供がバラバラでした。今年の秋から直そうという事で来年の3月を目指して、本格的に庄内全体の観光を発信する窓口をコンベンション協会にしようとしています。鶴岡の観光連盟の三浦さんの方でもやっていると思いますが、鶴岡市を含めてバラバラにやっても、同じ情報が入ってくるならいいのですが、1つの所でまとまっていないという事が出てきているので、それを直そうとコンベンション協会の方で、ITは力入れましよう動き始めております。

○ **今野毅分科会長** コンベンション協会というのは。

○ **早坂剛会長** 庄内支庁の中にあり、県と鶴岡市、酒田市、遊佐、戸沢村などの行政と一体となって運営しています。各市町村でやっているお祭りなどの年間行事や情報を全部網羅して、食でも季節ごとに魚、野菜、果物という情報を全部出して、それを各春夏秋冬という区分けをして半年前に観光の宣伝をしていかないと間に合わないわけで、そういうような動きをこれからやろうと、やっと仕組みが出来てきて動き始めます。その辺が動いていけば、酒田市も鶴岡市も個々にやっているような所とリンク出来るように、どうやってやるか。今まではパンフレットも酒田、鶴岡それから庄内とみなバラバラで、パンフレットだけ作れば終わったような感じだったと思います。

○ **今野毅分科会長** その辺は前回のお話で皆様からも出ました。庄内コンベンション協会というものを核とすることは、いろいろな整備の部分で見れば、可能性なり中心的に捉えるという事は可能ということですか。我々が鶴岡地域の中で、この位のエリアで話しているよりはずっといい話です。

○ **三浦惇委員** 山形県は県全体で他から呼び込みと、庄内は庄内で広域観光化されていますから、その中で位置付けをどうするのか。今早坂会長さんが言われたように庄内が出来たからといって鶴岡がそのまま庄内という事にはならないです。やはり個別に、鶴岡は鶴岡として戦略目標を立てないと。先程パンフレットで県は県で、庄内は庄内、鶴岡は鶴岡、酒田は酒田と色々ありますが、藤沢周平のパンフレットに庄内を載せてくれるかというとなかなか難しい。

○ **今野毅分科会長** 鶴岡地域。我々が話している事を地域のスポット的な部分の話は関連付けてリンクは持たせられる。

○ **早坂剛会長** 鶴岡や酒田が企画その他の部分を、庄内コンベンション協会に持ってくるということにした方は良い事だと思います。上からではなく、下から上がってくるという事でやらないと駄目だと思います。ただ、その時期を宣伝するには半年前から始めなければならないし、今頃冬の事を考えてパンフレットを作っても遅いのです。

○ **荘司正明委員** パンフレットも来た人に持っていくような形なのかもしれませんが、ホームページ上からダウンロードして、県外の人が自由に見られるようなパンフレットがいいのではないですか。

○ **三浦惇委員** 今、東京、首都圏などに全部配っています。札幌などでも配布していると聞いています。あと地元の人がどこで活用し、それを情報として出していくのが少し弱いような感じがします。確かに車はかなり増えていますから、この間も話しましたようにスタンドに一応置いている。集まる場所、観光物産館、会議所もですが、あらゆる所に置きますけれども、来れば渡すというような状況になっていて、一般市民がなかなか目に届かない。

○ **今野毅分科会長** それはまさに官民一体となって、出張に行った時に配るといような啓蒙をしましょうという話しになりました。

○ **三浦惇委員** 今日ほんの一部ですがパンフレット持ってきました。まだ沢山あります。羽黒は羽黒、役所は役所で作っています。共通のこれに載せればということになると相当のボリュームで配布用には合わない。ここにも庄内藩と載っています。庄内藩14万石の城下町をフレーズにしております。それから、とっておきの故郷鶴岡、前にも厚い人情おぼこの鶴岡と使った事もあるようですが、庄内藩といった場合、酒田の本間家をいれるかどうか。

○ **今野毅分科会長** それは我々ではなくて、別の話なのかもしれません。

○ **佐藤正廣委員** 先ほどナビゲーターとありましたが、今、観光大使など全国各地どこでもやっていますが、それを見て、じゃそこに行こうと思う人が果たしているのか、テレビなどで「私はどこの観光大使です」と聞くたびに思っていました。鶴岡市も同じようなことをやっていますが、ヤフーで鶴岡市観光を検索したら、鶴岡市観光連盟や鶴岡市を飛び越えてトップに北岡ひろしさんが鶴岡市観光大使になっているということが書いてあり、それを皆が見ているとなると、観光大使もそれなりに効果があるのだと見ていました。グーグルだと3位まで鶴岡市観光連盟が独占し4位に鶴岡市役所だったことは、鶴岡市観光連盟のページを見ている方が全国的に多いということがこれでわかる。ただ、私はもっとハードルを下げ、大使ではなく先ほどのナビゲーターという形でもいいので、最近庄内浜の魚伝道師などの検定とか様々やっています。観光協会とかどこでもいいので、県内、県外の方を2時間程度の講習と簡単な筆記試験等で合格すれば、鶴岡の観光ナビゲーターとして登録をし。その方々にはパンフレット数部ずつとかを毎年送り、友人、知人、知り合い、取引先に配ってPRをする。ナビゲーターになった方は特典として鶴岡からカレンダーとか貰える。ハードルを下げた形のナビゲーターを百人二百人にしたほうが集客力があるのではないか。グリーンツーリズムなどでもコンダクターとかいう人達が結構喜んで会社の本業の名刺に刷り込んだり、会社のホームページにも出したりと結構一生懸命な方が多いです。人に伝えるというのが大変なことだと思います。二十人若しくは百人、千人という方々が、それぞれの茶のみ話やお酒の席、あるいは家族の中でお話してもらえれば。ナビゲーターという考えはすごくいいと思います。余談ですが、先週、西原理恵子さんという漫画家の方が鶴岡市にいらっしゃったのですが、はえぬきの新米をちょっとお醤油つけておにぎりにして、旅館で食べていたことがもうブログにアップされ、ブログは何万アクセスがありますので、はえぬきの新米がうまいというのはPRされたなと見ていました。

○ **今野毅分科会長** いずれにしても、もっと広く。前回もありましたが、食でも何でも観光資源になる。

○ **佐藤正廣委員** 鶴岡は鶴岡で戦略的に考える。考えるはいいのですが、それをどうやって伝えるかというところで、みなさんパンフレットがこれだけあると考えているということです。成果が出ないというのは伝わっていない。

○ **今野毅分科会長** そこは何度も話が出て、使い方、媒体、情報発信基地。人としてナビゲーター。今いる大使も少し機動性のある効果のあるような形がどうか。

○ **佐藤正廣委員** ITは追いつけないです。大阪、京都、名だたるところの何千万という都市だろうと思いますが、すごいことになっています。もちろん出張その他、先々のページで見て自分でリサーチして行くのですが、鶴岡市はまだいいほうだと思います。名だたる観光地がホームページのフレンドリー、見やすさ、機能性など素晴らしいです。それを真似しても勝てないと思うので、そうであれば人でないのかと思います。

○ **今野毅分科会長** 五十嵐委員から、この前、各地域のお祭りなどを含めた観光資源といういろいろ連携しながらという話がありましたが、その辺はどうか。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 地域活性化するために、各地域ごとに分散しながらも全体的な活性化が一番大事だと考えていますが、一極的なことが問題点かと感じています。鶴岡市としても都市構想として何年計画の構想を明示しています。それについては大変結構でありますし、今後の市のあり方については、大きな展望が見えてきます。この分科会においては、観光、農業、漁業、林業関係のほうに基づいて、今後の鶴岡市のあり方というものを考えてきたわけですが、当然、今後そういったような業種別5項目に分けた考えも、どのような方法で達成するのか、常に私も感じています。森林文化都市構想についての、相当大きい問題も投資事業としてあります。農業についてもあると思います。例えば、鶴岡市にも森林組合が2つあるとか、農業協同組合も2つあります。将来、全国、世界的にまたをかけて事業を推進し発信する場合に、今後行政の中に、森林組合は2つありますが、それがあべき姿なのかといったようなことも当然考えております。行政機関の支援あるいは国からの助成を受けて、森林を維持管理するのは今現実の状態ですが、森林の文化構想を考えたら行政のなかで、将来的には、森林組合を1本にしていかなければならないだろうと私は常々考えているわけです。それに基づいて、農業、漁業についても同じような考えがあるのではないかと考えていますが、農業については組合長さんがおりますので、お聞かせいただければと思います。

○ **今野毅分科会長** 五十嵐委員が言ったように、2つの農協があるというのは巷ではよく言われていますが、我々はもとから分かれていたわけではなく、行政が一緒になったので一つ二つに見えるだけなのではないのかと、私は今のところそう思っています。それが鶴岡全体のなかに、いろんな意味でリスクになるのかというのであれば、そうではないと思っています。行政としては一つなのでやりにくさの部分はあるのかも知れませんが、双方が行政に迷惑を掛けないように実施する部分でやっていますので一つご理解をいただければ。何も相違わず敵対するわけでもないですし、いろいろ意味で大切していくべきではないかと私も職員には話しをします。地域に一致する農協なので、そういうことから地域産業に寄与できる連帯意識を持ちながらやっていかなければならないと思っているので、こういう会議の中でも様々な話はさせていただいています。我々農林水産商工すべてというのが観光という部分では、非常に関連するという話が前回あったわけですので、その辺をいかに有効的になおかつまとまっていくかというところで論点は集約されています。その仕組みづくりをしていくためには、具体的にはどういうことかということ、提言としてまとめていくとあつたけ

れども、私が見る限りでは7ページに書いてある意見の概要と3の具体的な意見と結びつけて、是非提言をしていきたいと思えます。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 今まで分科会で議論してきたのは、情報の発信を基本とし、拠点、ネットワーク、仕組みづくりの問題ということで、そのことへの提言になるかと思いきい項目立てとしましたが、今野分科会長さんから言われたように、この辺の肉付けを今日出していただき、次回最終案を皆さんにお出ししたいと思っています。今お聞きして更に内容的に広げなくてはならないところは、ITに拘るか拘らないかはありますが、情報発信する媒体として、事務局では、市民を少し中心として考えたところでしたが、観光大使だけでなくナビゲーターのような人を育成し、そういう人を介していろいろな情報発信をする。あるいは、全国に庄内のファンをつくり、そういう人のネットワークを介していろいろな情報を発信していく仕組みづくりは、ここに書いた以外では非常に大事なことと思えますので、なお掘り下げて議論していただければと思えます。

○ **今野毅分科会長** 我々が市にこういう仕組みづくりが必要だというところの提言をするのだから、もっと掘り下げるとなれば誰がするのかという話になるのでしょうか、それは市がやるべきことではないでしょうか。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 最終的にはそうですが、提言は提言として市で掘り下げますが、現場で考えますが、例えば、魚伝道師のようにナビゲーターを養成する、庄内ファンのネットワークを作るとか、そういう具体的などころまで議論していただくとなるほどということになるので、ここで結論を出せというのではないのです。

○ **佐藤正廣委員** 最近定期的に神奈川の湘南モールなどに、三川町の餅屋さんとか鶴岡市内の肉屋さんなどが、庄内の物産を持っていて販売、直売みたいなものをしています。せっかく幟旗を持って行くのだから、テレビで流せるというので、赤川の花火のDVDを持っていき、鶴岡でこういうイベントがあります、鶴岡に遊びに来てくださいというPRをしてきてと。

○ **今野毅分科会長** そういうイベントなどへ出向く様々な事業、市役所で総括しているものはあるものですか。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** いろいろ物産を持って首都圏に行ったり、江戸川など各地域でも姉妹都市がありますので、物産を持っていくイベントを頻繁にやっています。

○ **佐藤正廣委員** 結果的に持ってきてくれるので行かなくていい。そういう気がします。

○ **今野毅分科会長** 人が来ることはいいし、もっと来ることはいいと我々は話をしていますが、先ほどの話しのように、どういう仕組みかということが難しい。ナビゲーターというものの仕組みを浸透、募集といたらいいのか。こういうことが仕組みとしてありますよと取り組んだらどうなのだろうか。この地域の人はもちろん結構向こうに行ったりすること

があるから、ふるさと会や県人会などを含めながら、先ほど出た、とっておきのふるさとなんとかというようなファンクラブ的な募集でもいいと。そういった取り組みというものをやる。どういふことをするかというと、ナビゲーターという名前が適切かどうかさておき、いずれにしても資格とか持っている、様々なものを私はこんなことを取り組んでみたいとか、簡便な方法を普及させる仕組みを行政も含めてやったらどうか。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 今おっしゃたような提案を、次回までにまとめたいと思います。

○ **今野毅分科会長** 早坂会長から出された、伝統的な建物の保存というのには是非取り組んでいったらどうだろう。その仕組みがあるのか、また考えられるのかを含めて、当然コストもかかる話だから、ただ単に残すだけでなく、トラストとか方法は様々あるとすれば、事務局にそういったものを残しますよと進言と提案も必要だろうし、観光シンボルとして、当初話になっていた御角櫓への市民募金運動のような、ひとつの運動みたいな形で、鶴岡を盛り上げていこうというような雰囲気づくりは必要なのではないか。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 今回の提案で、古い建物を何とか残そうということは、観光の要素を広げていくには当然必要なことだと思いますので、8ページの大きい主旨2番に、鶴岡らしさとしてまとめました。事前に早坂会長からご意見を頂き調べた中で、今現在、人が住んでいる、明治時代、昭和初期の建物は結構あります。文化財のように法律的に位置づけられていない場合、市でそれを全部維持管理し守り修復するという費用の出し方はしていません。先ほど建築士さんのお話がありましたが、一級建築士の方が7、8年くらい前から組織をつくって、三浦屋さんの保護を何とかしたいということで、中の調査もして、その活用についても事業をやっています。ただ課題が非常にあります。費用がかかるということで誰が負担するのかという問題、実際住んでいる人がいる施設や建物になると所有者の意向ということがありますので、具体的な提言としては書きにくいということです。一般論としてはもちろんそれは大事ですし、NPO等では黒塀の塗装をする活動などもしていますので、出来るだけそういう市民運動を市としてはバックアップしていくということです。御角櫓という一つの形としては、市民運動という形で進めようと市民の中から出ていますので、城下町らしさの気運の醸成的なところで、市のほうでバックアップするという提言にはなるのかと思います。

○ **早坂剛会長** 市民運動とするための提言としてですが。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 市民に提言を出して、こういうことをしますということではなく、市への意見として、どういう形で取り上げたらいいのか。提言の前にある程度議論をしないと、いけないのかと思われま。

○ **早坂剛会長** 会議所のほうで市民運動として取り上げてと考えていたのですが、文化会館のことで産業会館の移築問題が出てきて、両方は出来ないということです。今の市役所の前の通りで、左側のところに御角櫓が出来て、右側のところに大宝館があり、致道博物館の

ところと、観光的な面として、あの通りはすごい通りになり、これからもの凄くよくなっていくだろうと私は思うのです。藤沢周平記念館もあり、お客さんと呼んでいます、あの街道筋をプラスする意味で、鶴岡らしさを残すためには必要なシンボルとして御角櫓があれば最高だと思います。前に作った設計もあります。お客さんの中に入れて見せるものではなく、外観だけの建物なので費用は1億ちょっとぐらいとありましたが、鶴岡市の観光のためには、市が中心となってやってもらえればありがたいのですが、それを市民運動として一緒になってやれば非常にありがたいのです。

○ 荘司正明委員 今の実態は商工会議所ですか。寄付も全く受付はしていないのですか。

○ 早坂剛会長 声は出したのですが、移築のことで、鶴岡市からどのくらい補助してもらえるか分かりませんが、全額なんてとても無理で、収益事業をやっているわけでない我々は会員から募って会館を建てなければならないわけです。観光的なことから言うと、そんなに待てないのではないかととも思います。

○ 今野毅分科会長 あの土台をそのまま活かすというのですか。

○ 早坂剛会長 あの土台を活かしながら、もう一回ちゃんと土台は作らなければならない。

○ 佐藤正廣委員 平成9年に一夜城といって青年会議所でしたのですが、平城なのに天守閣があったため、大分ご批判があったと。

○ 今野毅分科会長 場所はいいのでしょうか、要するに、どういう取り組み、運動を展開するのか。

○ 荘司正明委員 市の広報、ホームページで寄付とか集めることは出来ないのですか。

○ 吉住光正地域活性化推進室長 一般的には市の広報とかで寄付を集めるというものはないです。

○ 今野毅分科会長 市民運動でやるにも、商工会議所さんが出来ないのであれば、どういう形であるかという一言に尽きるのですが、どんなやり方があると思いますか。JCさんは頑張りませんか。JCを核にして、市民運動なので一箇所ではだめだと思うので、期成同盟みたいなものを参考にしながら、別の団体をつくるとか。

○ 佐藤正廣委員 JCを核にしてはそうですが、青年会議所は赤川花火で手一杯です。それと、日浴道の夕日ラインシンポジウムを二十何年間、青年会議所が主催ですとやっています。二十何年前は北は青森から南は新潟まで、70近い青年会議所が参加していたのが、出来た区間から抜けていくので、今、由利本庄と酒田、庄内中央、鶴岡、新潟の村上、岩船と5つの持ち回りですぐ回ってきます。今年は酒田でやりますが、出来るまでずっとやるのです。

○ **今野毅分科会長** 力のあるところでないと、牽引力と言ったらいいか。

○ **佐藤正廣委員** 御角櫓って何という人が大半でしょうから、荘内大祭の何かの時に、前
の一夜城の手法で出来るところから、仮設を組んでシートを張って、出来るようになります
と完成予想図を見せてはどうでしょうか。

○ **五十嵐吉右衛門委員** 商工会議所だけではだめでしょうから、全部、鶴岡市民全体でや
りましょうとしないと大変でしょう。

○ **佐藤正廣委員** 何かのシンボルで、それが、鶴岡の市制何周年、前に百番目の市だった
のが途切れたので、もう1回合併何周年とかに向けて、毎回、天神まつりなどの時に御角櫓
の仮設で組んで、これが本当に建ったらいいなとなったらいいのではないですか。一夜城も
平成9年の時は全国城下町シンポジウム鶴岡大会に合わせて、ベニヤで組んだのです。そう
いった人が集まる機会周知していく。

○ **今野毅分科会長** なかなか妙案が浮かばないというところですが、牽引となる何とか協
議会をつくるよりも核となる団体。市のほうが容易でないということになるのなら、はっき
り言ってかなり無理であろう。呼びかければ、様々な各種団体が参加するのだから。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 8ページの上を書いてあることが、特定の団体、特定の
動きにはまだなっていない状況の中で、城下町らしいまちづくりには、市民運動、市民の気
運醸成に努めるということです。市では、全体の街並みづくりとして風致計画に取り組み一
生懸命議論していますので、それが直ぐに御角櫓に結びつくか、市のほうで直ぐにそこに入
っていけるかどうかというのがあります。今回は地域審議会では提案という形ですので、観
光のことを話し合う機会などで具体的に議論をしていただいて。

○ **今野毅分科会長** そういう主旨としての表現の仕方だということを確認して、そういう
話をどこでどうするかということは、また別の団体の話でもらうということで、市には
提言するしかないのでは。骨子は前回の議論に集約されているということがありましたので、
今日付け加えられた、いろいろ育てていくという取り組みと、城下町らしい景観（御角櫓）
といった、観光振興を含めた別の段階で促進して欲しいという提言でどうでしょう。合併1
0周年ぐらいでは無理があるか分かりませんが、ひとつの目標を持ちながら、商工会議所一
丸となって、地域の経済団体、市民を巻き込んだ運動にすれば。確か長野の松本城も市民運
動、浄財で建てたとありましたが、骨子としてはどうでしょうか。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** このまとめを、全体会で事務局から報告させていただきます。

○ **今野毅分科会長** この過去に話をした何度か議論を重ねた中での集約ですから、地域に
貢献できるよう形でもっていければと思っておりますので、よろしくお願ひします。

3 全体会 （午後3時30分） （議長 早坂剛会長）

○ 早坂剛会長 それではどうもご苦労様でした。早速ですが各分科会での議論いただきましたまとめを、事務局からお願いいたします。

○ 三浦裕美地域活性化推進係長 コミュニティ分科会では、大震災を踏まえた防災力の向上と地域コミュニティの連携、地域コミュニティの連携と高齢者への対応について協議をいたしました。今回の資料以外に出ました意見を報告させていただきます。足りない部分は分科会長からお願いします。大震災を踏まえ、3. 11ということがありましたので、例えば11日とか、日を設定しての防災訓練をしたらよいのではないかとということで、相当前から日程を組むので事業がバラバラに進むため、市のほうで日にちを決めていただければ、もっと防災訓練が進むのではないかとご意見でした。それから、福祉、防災と分けずに一つにし、福祉マップ防災マップも一本にしたものをつくる。また、例えば各地域にある消防団や人材などが、マップに入れられれば、安否確認を含め、より地域に役立てられるのではないかとご意見がございました。情報の伝達で、高齢者の方ひとり暮らしの方が、地域の中に多くなり、難聴の方も増えていて、ご自宅を訪問しても聞こえなかったりする場合もあることから、火災報知機が義務付けになっているような形と同じように、インターホンとか何か分かるものを取り付けられるよう、市で助成なり何かバックアップ出来るものはないかというご意見と、地域の情報が伝わるシステムが、市街地、郊外地と地域の特性もありますが、システムの構築もあつたらいいのではないかとご意見がありました。それから、地域のリーダー育成で、市職員OBだけでなく、県や国の職員のOBの方々からもリーダーとして対応してもらったらいのではないかと。そして、市の職員が地域活動への参加が非常に少ないので、市の職員から積極的に地域の活動に入る取組みというご意見も頂戴いたしました。

○ 山田登分科会長 地域活動の中で人材を育てるということは、ある人からある人にただバトンタッチするということではなく、地域の中で子どもから老年まで、一緒に地域の活動をしていく中で、次の世代を上手に育てていき、若い者も年寄りも対等な立場で地域活動しながら人材を育てていく考え方で、人材を育成していくというご意見があつたか思います。それから、行政的には縦割りになっていて、地域活動から見ると、これは福祉領域、これは防犯、防災ということだけでなく、一体的に考えて実施をするほうが、やりやすいのではないかとご意見もございました。それから、何か大きい行事をやる時は、地域がバラバラに何の日、何々をする日とするよりも、防災の日なら防災の日と決めて、その日になれば、鶴岡市全体が訓練に動き出し、そこで何が課題になったかを反省し、よりよい訓練に高めていくという方法も、将来考えていったらどうかということがございました。それから、高齢者に対する我々自身の意識の持ち方ですが、ひとり暮らしとか決めつけないで、我々の仲間という意識で対応していく必要があるのではないかと。今は人に対して親切に優しく差別なく対応するというやり方が、行き渡っているのではないかとご意見もございましたので、その辺を丁寧に対応していく必要があるのではないかとご意見を付け足したいと思います。

○ 早坂剛会長 ありがとうございます。防災マップの話が出ていましたので、要望として申し上げたいのは、この間、東京で進出企業の皆様とお話をしてきた時に、時節柄3. 1

1の津波、水害、それからタイの洪水の問題等によって、非常に企業関係が心配しておりましたので、是非ひとつマップをお願いしたいと言われました。それから、市長が話をしていたのは、津波が赤川を遡上してくる蛾眉橋のあたりまでは上がってくると言われていましたし、水害の点においては、市内の元曲師町のところの交差点とか、水をついていたのですが、そういうところ今は水がつかなくなり、最近は大山川とかのほうが、水がつくというようなことがあるので、そういうところなどのマップも調べてみたらどうか言われましたので、その辺も是非ひとつ調べていただければありがたいと思っております。産業経済分科会のまとめをお願いいたします。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 産業経済分科会では、観光文化都市をテーマとし、どう地域の情報を広く発信していくかを主題に、これまでの議論の内容は、市民一人ひとりが観光、地域の情報を発信していくかということが今回の資料です。本日追加でありましたご意見を紹介させていただきます。まずは、市民だけではなく、もっといろいろなツールで庄内をナビゲート、案内していくやり方があるのではないかとということで、例えば、ITを使ったり、伝達をする人のことを考える場合に、市民に限らず広く、実際庄内をいろいろご案内、ナビゲート、伝えていただける方の簡単な試験をして登録、養成をしていったほうがいいのではないかという意見がございました。そういう方を通して友人、知人などいろいろなネットワークを活用して鶴岡の情報を発信していったらいいのではないかとということです。それから、庄内の魅力をアップしていくために、鶴岡らしさをどう創出していくかということが大きい課題であります。その中で、鶴岡に残る古い建物、いろいろ、例えば、三浦屋さんの名前も上がりましたが、そういう鶴岡に残る古い建築、建物をいかに活かしていくか。保全しながら観光に来た方に見ていただくという視点で、発信していくことが必要だろうということです。もう一つは、鶴岡の城下町らしさ、例えば、御角櫓ということも例に出ましたが、いかに市民の中で育てていくかという運動が重要であろうということもございます。その気運づくり、支援づくりといったものを市に特段のお願いをし促進するという点からのご意見がありました。

○ **早坂剛会長** 今いろいろ補足的なことをも出てまいりましたが、何か全般的にご意見がありましたら承りたいと思います。いかがでございましょうか。これは、今回の取りまとめをしてもう一回。その辺について事務局どうぞ。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 最終の地域審議会を11月16日水曜日午前9時半からさせていただきたく、提言の提出日程等から会長さんの日程をお聞きし、決めさせていただきましたのでお願いいたします。16日の審議会は提言のまとめとなりますが、総合計画の実施計画について企画調整からご説明をし、皆さんにご意見をお聞きすることを予定していますので、その後に提言内容についてとなります。今日の意見をもとに、これまでの議論を最終的にまとめますが、この一つ一つの内容について担当課がございます。市への提言です。提言を受けて市でどうするかということで、具体的な話はまだしていませんが、担当から実態のことなど、特に防災、観光、市民生活、福祉といったことは、少し十分協議させていただいて提言という形でまとめさせていただき、次回は市長への提言として、皆さんに最終案をお出ししご意見を伺うことで考えております。山田分科会長からもありましたが、

地域のコミュニティや活動は、防災、福祉、地域の青少年育成など、一つのコミュニティの中のことだと感じており、今回、防災についての意見が多いため防災で一つとしましたが、まとめをする際には、防災関係、地域の高齢者、福祉関係、地域の活動・連携は一つで提言したほうがいいのではないかと思いますので、事務局にお任せいただき、会長とご相談いたしまして2つの提言という形で、ご了解願えればありがたいと思っております。私どもから進め方ということでご報告させていただきました。

○ **早坂剛会長** ただ今事務局から取りまとめ、提言書につきましての、ご説明がありましたけれども、取りまとめの仕方も含めまして何かご意見がありましたら承ります。

○ **後藤輝夫委員** 先ほど産業経済分科会の報告で観光文化都市の推進とあり、ガイドの育成や古い建物とのことも出ましたので、申し上げたいのは、公園とか藤沢周平記念館と、市役所の駐車場、第2駐車場、公園駐車場と役所でつけた名前ですが一般の市民には分かりにくいです。例えば三浦屋さんなどに行くとしても、遠隔の地から来る方は、自家用車または観光バスでお出でになるだろうということで、ガイドの養成とともに、空洞化した空き地をそのまま更地にしておくよりは、観光の専用の駐車場として確保するということが大事で、不可欠なことではなかろうかと思っております。秋に米沢に私達の老人クラブで勉強に行きましたが、伝国の森というあの一带、よそでは得られないような非常に広い駐車場が確保されていて、誘導する方もおりましたので、安心して十分に研修が出来ました。ガイドさんが常駐しなくても、観光の方々がお出でになることが分かり、お迎えできることが出来たら、分科会で討議されたことに一層効果的ではなかろうかと一言申し上げて終わります。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 今のご意見は、ガイドの養成やおもてなしに加えて、空洞化している空き地などを観光の駐車場として活用するという、ご提言ということによろしいでしょうか。それぞれ分科会を超えての意見がありましたらお願いします。

○ **稲泉真彦委員** 産業経済の意見の概要の中で、前回も発言しましたが、交通マナーの問題が非常に我が市残念だけれども落ちます。最近全国的な情勢として、歩道の自転車通行の問題などいろいろな改正が行われる。ただし、鶴岡市の場合は歩道の幅が3.5メートル以上というのは少なく皆狭いです。歩行者の歩行を妨げるような車の運転に対しては、非常に厳しく取り締まるといような宣言もあったかと思いますが、この文章の中で、市民一人ひとりが観光のおもてなしを見える形で実践すると書くのは易しいですが、この市では何をするのか。問題は一度来てくれただけではだめで、再度来る、知人友人を連れてくる、あるいはリピーターになってくれるということを目指すならば、市民ひとり一人のおもてなしが非常に重要なことになるので、この部分について、もう少し具体的な例などを入れて記載できないものかと思えます。市民は書いてあっても一体何が何なのか、お題目としては分かります。例えば、つい数日前も料理番組の中で沖縄は非常に親切な心が際立っているという言い方をしていました。全国の人がそれを認めていて、同じことは私もかつて四十数年前に沖縄に行き、あれから四十何年経ったので違っているかも知れませんが、道を聞くと30分も歩いても現地まで連れて行くのが当たり前のような社会で、そういう精神、親切というのは、自分の周りにある文化財その他に連れて行くだけではなく、アドバイスが出来る市民を目指

すものももう少しないと、市民に見せてもただ文章として終わってしまうのではないかということを危惧しました。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 今回に提言については、地域審議会から市への提言ですので、確かに観光文化都市を進める上では非常に大事なことは理解できますので、マナーの問題をどうしたらいいのかということ、地域審議会からの具体的な意見を頂ければと思っています。

○ **早坂剛会長** 先ほどナビゲーターというお話がありました。カタカナで分かりづらいかもしれませんが、外から来たお客様に対して案内をするという、おもてなしのような気持ちを含めてナビゲーターを提言しているのではないかと思います、いかがですか。

○ **荘司正明委員** ナビゲーターと言うのは、庄内ナビゲーターという庄内を案内する意味ですが、庄内出身者が県外に多数いると思います。そういう人達が自分のふるさとを知人友人に案内して、庄内ってこんなにいいところなのだということで、是非観光の案内をしてもらおうという意味でのナビゲーターです。今のお話は、地域の中の問題であり、その辺のおもてなし、マナーに関しては、別な分野で我々が取り組んでいかなければならないのかと思います。庄内を発信するという意味でのナビゲーター登録制度という意見を言わせてもらったのですが、とにかく庄内という魅力ある地域、農産物などをいかに日本全国に発信していくかというのは、人の力が一番大きいので、庄内のファンを今後いかに増やしていくかいうところを、今後考えていただければいいのかと思って言ったのがナビゲーターです。

○ **早坂剛会長** そういう大きい意味と、それから地元の人たちがいらっしゃったお客様に対して、いろいろと親切に対応していくという接遇の気持ちを、皆にうえ付けるかということになるのかと思いますが事務局で考えてもらえますか。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 荘司委員からありましたが、外への情報発信という部分を、どうしたらいいかと一生懸命分科会で議論しました。こちら側のマナー、おもてなしの部分ですが、非常に大きい問題だと思います。それをどうするのか。例えば交通ルールの問題だけを書いても少し変な感じがしますので、今回の提言の中では少し難しいのかという感じがしていますが、ご意見を是非出していただければというのが率直なところです。

○ **早坂剛会長** 今の稲泉委員の話で、一般の市民の人達に如何におもてなしの気持ちを持たせるキャンペーンと、観光ボランティア的な人をいかに多く育てていくかということもあるのではないかと思います。是非その辺を提言の中に入れていったらいかがでしょうか。

○ **後藤輝夫委員** もう一つ尾花沢の市長さんがこういう観光の名刺を作っておられました。5月19日にこの会があり約2ヶ月過ぎた時に、天童で東北ブロック6県と仙台市の七つの連合で、今の東日本震災についての学び、情報交換、対応についてのリーダー研修会があり、それに参加させていただく時に、5月の産業経済分科会のことを思い出して、市に仙台市を含む6つの連合会の参加者数の最新版の観光パンフレット頂いて、会場で配布をさ

せていただきました。提言はともかく、ボランティアの育成とともに皆が鶴岡を、他に行く時、いろいろな会合で鶴岡を宣伝するという事で、パンフレットを頂いて一日観光大使になる気持ちの育成なども非常に重要だと思い、実践させていただきました。その結果が今日明日出るわけではありませんが、鶴岡のもてなしや気持ちが出てくるのではないかと思いますので、各委員さんのようにニコニコとした笑顔が、鶴岡市の観光にとっては非常に重要だと思います。

○ **早坂剛会長** ありがとうございます。これからは是非皆さんが一日でなく、いつでも観光大使のつもりでやるということで向かっていただければ、よくなっていくのではないかと思います。

○ **三浦惇委員** 数に限りがありますので、いきなり何百部と言われても困ってしまいます。それから観光名刺ですが、何種類かの中から図柄を選んでということですので、皆さんから是非作っていただいて、配っていただければと思います。

○ **早坂剛会長** 今の話は一面のところだけにあるのではなくて、折りたたみになっていて、その中に市の主だったものがとのことでしたが、そういうことも含め、一般の人たちに、例えば、名刺となる紙を売って印刷をしてもらうことなんかひとつ出来るかも知れません。

○ **稲泉眞彦委員** 事務局から具体的にとのことでしたので、例えば、交通安全に関しては、安全協会というのがありますので、市として一緒になって動くという取組みが考えられます。それから、市の広報を月2回出して全戸配布します。その中で、今年は交通マナーの問題をやると決めて、はっきり市民に宣言をせずとやり続ける。いい例を次々に探してきて、こんなにいい例があった、こんな努力をした人がいた、こんな子どもがいたというのを、次々に毎回記事として載せながらキャンペーンをして意識を変えていく、市として取り組めるものは多いのではないかと。市報は連絡事項だけでなく、市として積極的な働きかけを持つようなことは根本的に出来るのではないかと。それから、小さな親切運動などもあります。市の直接のものではありませんが、協力を頂くということは出来るのではないかと。その他、町内会やいろいろな組織に対して積極的に推薦してもらう、取り組んでもらう、あるいは、各町内が子どもの安全のために毎日のように立っている人達の活動も含めて、何か関係者で考えていけることは沢山あるのではないかとという意味で、例として申し上げます。

○ **早坂剛会長** どうもありがとうございました。広報を使ってキャンペーンするというのは、すごくいいアイデアだと思います。

○ **吉住光正地域活性化推進室長** 産業経済分科会だけでなく、市全体の施策にも反映できるようなことまで、おっしゃっていただいたと思います。その中で今回のこの提言の中に、今のご意見をどういう形で入れられるか事務局で検討させていただきます。

○ **齋藤春子委員** 私が話そうとしていることの発表する機会がなくて、例えば、県の大会、庄内地方の大会など大会を引き受けますと、皆さんが、鶴岡のPRもかねて、鶴岡ならではの

の物品を販売して欲しいとなります。ここ2、3年は受けていませんが、例えば、文化会館でする場合に中では絶対だめと言われます。外にテント張ることも断られました。何とかして欲しいという皆さんの要望もあるし、例えば、地域ごとに私のほうでないと、PRできない。あるいは売って欲しいと言うのがあるので、商工会議所のところを半分お借りして出したこともあります。考え方、前例がないので出来ないと言われる。例えば、福祉の関係で、他の市役所の中では、養護の学校の生徒が作ったものが販売できるのに鶴岡は許可されない。中央公民館も同じです。もう少し柔らかい考えでもいいのかということも、希望として申し上げる機会がなかなかなく、何かの折にご検討をお願いしたいと思います。

○ 早坂剛会長 どうぞひとつ前向きにご検討ください。よろしくお願いします。

○ 吉住光正地域活性化推進室長 かなり具体的なことですので、担当課には申し伝えておきたいと思います。

○ 早坂剛会長 時間も少しオーバーしておりますが、もし他にここでおっしゃっておきたいことがありましたら承ります。なければ閉めさせていただきます。次回の11月16日9時半から12時までということで予定をされておりますので、それまでにまた何かございましたら、コミュニティ、産業経済どちらの分科会でも結構です。コミュニティの皆さんから産業経済分科会に言っていただいて、どうもありがとうございました。

4 閉 会 （午後4時15分） （三浦裕美地域活性化推進室係長）